

# 特定外来生物オオキンケイギク 防除管理マニュアル



環境研究部 緑化生態研究室 室長 松江 正彦 主任研究官 小栗 ひとみ 招聘研究員 畠瀬 頼子

(キーワード) 特定外来生物、オオキンケイギク、防除

## 1. マニュアル作成の経緯

オオキンケイギクは、平成18年2月に「特定外来生物」に指定され、その栽培、保管、運搬、輸入等が規制され、必要と判断される場合には防除が行われることとなった。現在、河川や道路では、市民と連携した防除の取り組みなどが試みられているが、オオキンケイギク（写真-1）は、北米原産のキク科の多年生草本で繁殖力が強く、大量の種子を結実しこぼれ落ちた種子からよく発芽するほか、管理後に残存した部分からもすぐに再生する強健な性質を有した植物であることから、その効果は十分に上がっていない。

オオキンケイギクについては、国内での研究例が少なく、効果的な管理手法を検討するための情報蓄積が必要となっている。そこで、平成18年度より国営木曾三川公園かさだ広場において、抜き取り、刈り取り、表土はぎ取りの3つの手法を用いた植生管理実験を実施し、管理手法とその効果を検証してきており、これによって得られた知見を踏まえて、防除管理マニュアルをとりまとめた。

## 2. オオキンケイギク防除管理マニュアルの概要

管理手法の検討にあたっては、まず現状把握に基づいて、実現可能な目標を設定することが必要である。その際、オオキンケイギクの防除後に、どのような植生をめざすのが重要な視点となる。目標が決まったら、それに応じた適切な管理手法を選定し管理を実施する。その際、モニタリングによって効果を把握することが重要であり、その結果、十分な効果が確認できない場合は、目標および手法を見直す必要がある。防除管理の流れを図-1に示す。本マニュアルでは、この流れに従って、目標設定の考え方、管理手法と効果、目標に応じた管理手法の選定方法、管理作業の進め方、実施上の留意点などをまとめている。前述のように、オオキンケイギクは再生能力が高く、根絶までには数年にわたる継続的な管理が必要であり、また根絶できた場合にも、新たな侵入を防ぐための対策が必要となる。本マニュアルが、現場におけるオオキンケイギク対策の一助となることを期待している。

成果の活用事例



写真-1 オオキンケイギクの花（上）とこぼれ落ちた種子（下）

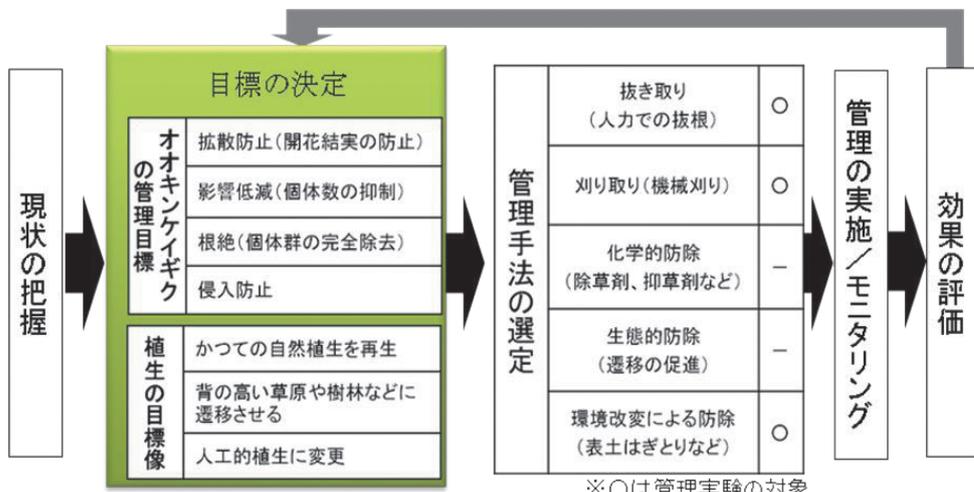


図-1 オオキンケイギクの管理目標の設定と管理手法